

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 7 学校名 岐阜総合学園高等学校

学校教育目標 (教育方針)	自ら学び続ける意欲と態度を養い、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間を育成する。 1 主体性を重んじ個性を伸ばす総合学科の特色を生かし、自らの可能性を引き出す力を育てる。 2 自己を正しく理解し、自己実現を図るための、人生設計力を育てる。 3 実践的活動を通して、自主性・創造性を養い、健康な心身を育てる。 4 社会の一員としての役割と責任を自覚し、他を思いやる友愛の心を伸ばし、たくましく生きる力を育てる。		
3つの方針 (スロー・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G.P】	・主体性をもって課題解決に取り組み、自らの可能性を引き出す生徒 ・自己を正しく理解し、自己実現を図るための人生設計力を身に付けた生徒 ・実践活動を通じ、自主性と創造性、健康な心身を兼ね備えた生徒 ・他人を思いやる友愛の心をもち、社会で生きる力を持った生徒	
	生徒をどう育てるか 【C.P】	・生徒一人一人の特性に応じた学力の伸長を図り、深い学びを実現するため、カリキュラム編成と、ICTなどを活用した創意工夫の授業展開 ・総合学科における専門教育とキャリア教育を通して「主体性・思考力・協働性」を養う授業の実施 ・「凜として美しく」をモットーに、学校生活の充実を図ると同時に、個々の進路実現に合わせた教育活動の実施	
	どんな生徒を待っているか 【A.P】	・向上心を持ち、どのようなことに対しても主体的に学ぶ姿勢がある生徒 ・自ら様々な課題を発見・分析でき、適切な計画を立ててその課題に取り組める生徒 ・他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる生徒 ・他者と協力しながら、社会に貢献しようとする思いがある生徒	
学校の抱える課題	県内最大規模の総合学科単独校としての在り方を確立する ①各系列の特徴を生かした魅力ある教育課程の編成 ②キャリア教育を軸とした幅広い生徒の進路希望を叶える指導体制の確立 ③総合学科の特徴を理解し、強みを生かした教育を提供するための職員研修の充実		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	・総合学科の強みを生かした特色ある教育活動を実践するため、教育課程や指導内容、教員の指導体制について常に見直しを図る。 ・実践的で幅広い教職員の研修を計画的に実施し指導力の向上を図るとともに、管理職を中心に働きやすい職場環境づくりを推進する。	
	学習指導	・毎日の授業を大切に、ICTを効果的に活用し、生徒の意欲的な学習態度を育成し、主体的で深い学びを実現する。 ・総合学科の特色を生かし、産業教育・キャリア教育・文化芸術スポーツ教育等に係る幅広い授業を展開し、社会で活躍できる確かな学力と実践力を育成する。	
	進路指導	・自己の能力や適性を理解し、ライフプランを作成し、自己の目標の実現と自らの成長のために主体的に学ぶ力を育成する。 ・探究活動や実践を通じて課題を発見・分析し、情報や知識を適切に収集・活用しながら、他者と協働し社会参画する力を育成する。	
	生徒指導	・基本的な生活習慣全般の指導を行い、美しい身なり・言動・姿勢で学校生活を送らせる。 ・規範意識ならびに自他の生命を大切にすること、いじめをしない・させない心を育成する。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	①総合学科の特色を生かした学校運営や教育活動の実践のために教育課程や日課、広報活動、教員の指導体制の改善を継続し、地域住民や保護者など地域と一体となって魅力ある学校づくりを推進する。	20	施策IV-20 ・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・学校運営協議会などでの地域住民や保護者のご意見	・総合学科の特色を生かした学校運営を行っているとともに、指導体制の改善を継続している。 ・教育課程については、今後目指す姿を考えた内容に改善することができた。 ・広報活動については、Instagramを開張することができた。 ・保護者対象アンケートにおいて、「学校開放や見学会等の学校に参加する機会を提供している」について、肯定的な回答は、約50%と低い数値であった。 ・各系列において、さまざまな地域の企業や公共団体、学校と連携して実習や講義を実施した。また各部活動が多くの地域イベントに参加した。	A	○Instagramについては関心のある方が多く、本校の魅力をPRするのに最適である。今後も魅力ある学校づくりを推進し、継続的に発信していきたい。 ▲学校開放や見学会については、校舎の工事のため困難で、やむを得ないところがあるが、来年度の実施について検討したい。 ○総合学科としての特色を生かした数多くの地域と連携した実践的・協働的な学習活動により、生徒の課題解決力を育むとともに、地域に貢献することができた。今後もこうした取り組みを推進していく。	
	②特別支援教育委員会や研修会を開催し、専門機関と連携しつつ、多様な指導・支援を必要とする生徒に対する支援や学習体制の整備を恒常的に実施する。	21	施策IV-21 ・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・会議・研修会ならびに支援の実施状況	・年度初めに職員間で情報共有を図り、SCより「発達障害のある生徒への対応と合理的配慮」の職員研修会を実施した。 ・合理的配慮を必要とする生徒・保護者の意向を聞き、できる支援を検討する特別支援教育委員会を行い、支援体制を整え、教員間で情報共有した。□ ・教室へ入れない生徒に対し、「ほっとプレス」で個別に対応を行なった。□		○職員研修を通して、対応の仕方や生徒理解を深め、職員間での共通理解を図ることができた。 ○SC、通級指導、G-ブレイスなど外部機関と連携し、きめ細かな対応ができた。 ○配慮を必要とする生徒は、元気に学校へ通い、活躍している。 ▲「ほっとプレス」の運用には職員への啓発を行い、一層の整備を行いたい。	
	③総合企画部を中心に、教員のニーズや教育の今日的課題に応じた実践的で幅広い研修を計画的に実施し、教職員の資質・指導力の向上に努める。	26	施策IV-26 ・研修会の実施状況および教員のアンケート結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・教員のニーズに応じた研修を取り入れるとともに、他の分掌の研修をコーディネートすることができた。		○教員のニーズを踏まえ、ICT機器の使用法といった研修を職員会議ごとに短時間取り入れはじめた。今後も継続していく。	
	④外部人材を活用し、校務のDX化を推進し多方面で効率的にICTを活用することで、教職員の多忙化の解消を目指す。	27	施策IV-27 ・教職員の勤務状況・校務DX化の状況 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・4月に2回、ICT連携チームによるTeams等の研修を全教職員向けに実施。 ・Teamsに関しては生徒の出欠状況確認やオンライン職員会議のため使用しているもので、ほぼすべての教職員が使用できる。また、生徒への課題や連絡をmanabaを通して行っており、学年閉鎖時などにもSHRをオンラインで実施し、学習の指示を行なうことができた。 ・生徒の選択科目について、AccessからExcelに移行す環境を整えた。		○誰にでも効率的に使用できるICT環境を目指して、ICT部門については今年度は大きく前進し、教職員の多忙化解消が進んだ。 ▲チーム内での分業・分担を計画的に行い、ICT研修を継続的に実施し、校務のDX化を更に進めていきたい。	
①生徒個々に応じた主体的・対話的・協働的・実践的な学びを充実し、社会で生きる学力を育成する。	8	施策II-8 ・授業アンケートの結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・10月に生徒による授業反省と授業評価を実施。 ・生徒対象アンケート「本校は、生徒が興味関心や進路などを踏まえて教科・科目を選択できるように工夫している」について、肯定的な回答93%。		▲来年度に向け授業反省と授業評価の方法を検討し、生徒の学びをより充実させるため、全ての授業でアンケートができるように計画的に取り組んでいく。		

学習指導	②タブレット・電子黒板・書画カメラ・学習支援ソフトを積極的に活用し、ICTを活用できる力を育成するとともに、生徒の理解の質を高める。	9	施策Ⅱ-9	・授業アンケートの結果 ・ICT活用状況調査の結果 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・実習系以外のほとんどの授業においてタブレットやプロジェクトの積極的な活用が見られる。 ・生徒対象アンケート「ICT機器を有効に活用した授業が行なわれている」について、肯定的な回答74%	A	○授業アンケートからもICT活用による理解度の向上が見られる。 ▲来年度はスタディサブリの活用度向上に向けて、計画的に取り組んでいきたい。	
	③各系列ごとに職場体験活動や職業講話、外部施設設備の活用を通じ、地域資源を生かした産業教育を推進する。	14	施策Ⅱ-14	・職場体験活動・職業講話などの実施状況ならびに生徒の事後アンケート ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・総合的な探究の時間の中で初めて職業体験等を行ったところ、生徒の反応はよかった。 ・各系列においても、職場体験活動、職業講話など地域資源を生かし、昨年度以上に積極的にこなしている。		○他の系列と協力しあいがの産業教育やイベント実施は非常に有意義なものであった。 ○インスタグラムで発信することによって、さまざまな産業教育の取り組みが可視化された。	
	④総合学科の特色を生かし、文化芸術やスポーツに触れ、親しみ、感性を育む講座や行事を充実させる。	5	施策Ⅰ-5	・授業や行事の実施状況 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・7月のアンケートにおいて、「学校行事や部活動を通じて、生徒が充実した学校生活を送れるように取り組んでいる」では保護者84%、生徒92%が「よくあてはまる」や「あてはまる」と回答。 ・部活動加入率77%。		B	○今年の学園祭では、文化系部活動も活躍した。どの行事においても、本校の特色を生かしつつ、生徒会を中心に生徒は主体的に熱心に取り組んでいる。今後も、引き続き生徒が充実した学校生活を送るために工夫していきたい。
進路指導	①大学・企業等との連携や協働を推進し、実践的・体験的な学習の充実を図り、確かな学力と実践力を育成し、個々が主体的に進路目標を実現するための支援を行う。	8	施策Ⅱ-8	・進学・就職の状況 ・外部模試などの結果 ・実習授業・職場体験などの事後アンケート	・「総合的な探究の時間」で職業体験を実施できた。 ・各系列において、多くの企業や大学・専門学校と連携し、実習や講習を行った。 ・2年の3月に、就職希望者の企業訪問を複数回行い、早い時期からの進路意識の醸成に努めた。 ・進学希望者に対して模試を勧め、個別に学習の仕方へのアドバイスを行った。		○進学志望、就職志望、ともに様々な活動を通して、生徒の意識に良い変化がみられる。 ▲模試指導や企業見学について、より継続的・効果的な実施を目指したい。	
	②生徒が自己の適性や可能性を理解し、働くことの意義や、学習と将来とのつながりを実感できるよう、地域や産業界と緊密な連携を図り、キャリア教育の充実を推進する。	13	施策Ⅱ-13	・キャリア教育の実施状況および生徒の感想 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・ジョブフェアやガイダンス、応募前職場見学等を通して企業の採用担当者から直接情報を得ることで、就業意識が高まり自らの将来を具体的に考えることができた。 ・生徒アンケート「外部（地元自治体、高等教育機関、地元企業、地域住民等）との連携を生かした教育活動に積極的である」について、肯定的な回答73%。		B	▲今後も、外部との連携を活用し、よりキャリア教育を充実させていく必要がある。
	③「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」の内容を編成しなおし探究的な学びを深化させ、互いに認め合う活動を通じて自己表現力の向上を図り、他者と協働して社会参画する力を育む。	1	施策Ⅰ-1	・探究活動の事後アンケートや感想・自己評価 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間」に繋がりをもち、キャリア教育を実践できつつある。			▲来年度に向けて「総合的な探究の時間」の年間計画を見直し、完成させていく。
	④各系列ごとに地域の会社や施設、専門家等と連携した学習を実践し、「ふるさと岐阜」について学び、地域の課題解決のための探究活動を行い、将来地域の担い手として活躍できる人材を育成する。	4	施策Ⅰ-4	・地域に関する探究活動の実践内容ならびに発表内容・自己評価・他者評価 ・生徒および保護者対象アンケートの結果	・系列によっては非常に積極的に活動を展開できたが、課題設定が難しい系列もあった。 ・生徒のタブレットの接続状況が悪く、予定どおり行えないこともあった。			▲各系列で実施している内容を共有し、「総合的な探究の時間」について全体計画を見直すとともに、各系列の取り組みを深化させていく。
	①生活指導週間を設け挨拶や生活規範・マナー指導について生徒主体で啓発活動を行い、自己指導能力およびコミュニケーション能力を育成する。	1	施策Ⅰ-1	・生徒および保護者対象アンケートの結果 ・生徒会の活動状況 ・身だしなみ指導の状況	・生活委員が毎週水曜日に校門に立ち挨拶指導を実施した。 ・長期休暇明けに、職員・有志生徒・MSリーダーズ等で登校指導を実施し、身だしなみの啓発活動を行った。			○登校時に、生徒自ら大きな挨拶・声かけをすることにより活気のある雰囲気づくりができています。 ▲身だしなみ指導については、多くの生徒は正しく行動できている。年次と連携し粘り強く指導していきたい。
生徒指導	②交通事故を防止するため、交通安全強化週間・交通安全の日を設け、交通安全委員・MSリーダーズ・職員による指導を継続的に実施し、子どもたちの安全・安心を守る安全教育の充実を図る。	19	施策Ⅲ-19	・MSリーダーズの活動状況 ・交通事故発生件数 ・交通マナー違反件数	・年間4回、交通安全強化週間を交通安全委員会を中心に交通安全の啓発活動を中心に実施した。（PTA合同） ・11月には、ヘルメット着用週間を設定し、交通安全委員会とMSリーダーズでヘルメット着用の啓発活動を実施した。ポスターを作成し教室に掲示し、昼の放送でもヘルメット着用を推奨した。		B	▲昨年比比べ、自転車での事故が増加傾向にある。ながらイヤホンの禁止など、交通ルールの遵守について継続指導が必要である。 ○マナーやルール違反については減少傾向にある。 ▲ヘルメットの着用率は高いとはいえないが、啓発活動によって重要性を認識し、意識は高まっている。今後も継続して指導していく。
	③携帯電話の使用規定を定め、生徒会と連携しながら情報モラルに関する指導を継続的に実施し、ICTを正しく効果的に活用できる力を育成する。	9	施策Ⅱ-9	・携帯電話不正使用件数 ・生徒アンケート結果	・KDDIに依頼し、情報モラルオンライン講話を実施した。 ・文化祭では、生徒会と連携し、正しいスマートフォン利用について全校生徒に対して啓発を行った。 ・スマートフォンの不正使用の指導を行なった。			▲SNSが多様化し、誹謗中傷など指導すべき内容は多岐にわたる。指導年次と連携し、情報モラル違反について今後も指導と啓発を行なっていく。
	④懇談や迷惑調査などのアンケート、全職員への研修を実施し、専門機関と連携しつつ、生徒指導・教育相談活動を推進し、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応を徹底する。	3	施策Ⅰ-3	・いじめ・いたづら等問題行動・迷惑行動の状況 ・遅刻者数・欠席者数の状況 ・教育相談、カウンセリングの実施状況	・迷惑調査等を実施し、調査結果を担任等関係職員で共有し、悩みを抱える生徒への対応を相談し、年次主任、SC、保健室と連携して行った。 ・SCによる生徒理解のための職員研修会の実施。 ・事例演習を行い、生徒理解の方法や対応のスキルアップに努めた。			○調査などから心の悩みを抱える生徒に気づき、担任、年次と連携して早期に対応できた。 ○「ほっとプレース」の活用等、教育相談が中心となりきめ細かな指導を行なった。 ▲校内での情報共有や外部との連携を図り、今後も早期発見・早期対応を徹底していく。

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月29日

学校関係者評価

実施日：令和7年1月29日

・授業改善や生徒理解のための研修を計画的に実施するとともに、授業反省、授業アンケート、授業評価の方法を改善し、生徒の学びをより充実させていく。  
・効果的なキャリア教育のために、進路指導部・総合企画部が中心となり、進路実現のための指導方法を改善を図る。特に「総合的な探究の時間」について全体計画を見直し、各系列の取り組みを深化させていく。  
・生徒が主体となって、交通安全やヘルメットの着用率向上のための活動を継続的に実施するとともに、集会やHRなど様々な場での交通安全指導、情報モラル指導、美化活動を強化する。  
・現在実践している地域と連携した教育活動、教育相談活動、学校行事、校務のICT化などについて、今後も組織的に実践し、PDCAサイクルを大切に、よりよい活動を目指す。

・先生方の粘り強い指導が結果になっている。進路指導についても、本校では、1年で方向性を決め、2年3年としっかり指導している。  
・校務でのICT活用の他、学習指導、授業についても、ICTを有効に活用し、学習効果があがっている。  
・生徒指導、教育相談については、今後も早期対応に努めてほしい。今、社会では、いろんな問題がおこっており、安心して学習できる環境づくりを目指し、いっそう指導を充実してもらいたい。  
・各系列の教育が充実しており、地域の企業や店舗と連携し、外部で体験するといった、様々な学習指導、進路指導を行っている。メディアの報道も多く、いい印象を与えつつ、学校をPRする、ブランディング化がうまくいっている。  
・交通安全指導、学校の美化活動についても、一層力を入れてもらいたい。